

# トランスジェンダー学生受け入れる清心女子大

## 多様性や価値観尊重

ノートルダム清心女子大(岡山市北区伊福町)は、生まれた時の性別が男性で、性自認は女性というトランスジェンダーの学生を2023年度から受け入れることを決めた。「一人一人の学生の悩みや希望に寄り添う」。インタビューで津田葵学長は、建学の精神などを掲げながら決断の理由を語った。学内に委員会を立ち上げてガイドラインを制定するなど態勢を整備。受け入れは「多様性、価値観の違いを認め合うこと」とし、「学生が自分らしく生きる」ことのできる学びの場を目指す」と話した。(斎藤章一朗)

### 津田学長に聞く

「特別なこととは考えていない」

津田学長は、こう切り出した。「社会動向に注視し、考慮・対応するという教育理念に基づいた動き。多様性は重要な社会的概念であり、従来の学生同様、個々の人格を尊重する」

トランスジェンダーの学生を巡っては、お茶の水女子大(東京)が18年に初めて受験資格を認めると表明し、全国の女子大で少しずつ進んできた。中国地方ではノートルダム清心女子大が初めてだ。

つだ・あおい、ノートルダム清心女子大教授、大阪大学大学院教授などを経て、2014年からカトリック・ナミュール・ノートルダム修道女会日本管区長。17年4月から学校法人ノートルダム清心学園理事長。21年4月から学長を務める。大阪大名誉教授。

## 環境、態勢を整備

「排除しない」前提



トランスジェンダーの学生受け入れについて語る津田葵学長(中西弘之撮影)

「排除されるといことが、当事者にとっては一番つらいと思う。どうしたら受け入れられるかを考えた」

委員会は、受け入れを前提に議論を重ねた。制定したガイドラインでは、トランスジェンダー女性を「多様な女性の一人」と位置づけ、大学の環境を整えようとした。入試前に性自認に関する書類を提出して面接を実施。なりすましが発覚した場合は退学とする

「悩みを抱えた学生と大学側が互いに理解し合う。個別の問題がある場合も、協議してよい方向に進むよう解決したい」

国際化やデジタル技術革新の波が押し寄せ、社会は変革を迫られている。

「学生一人一人が自分らしく生きることができるとありたい。多様な人々が共生し、活躍できる社会の実現に貢献できることを期待している」

するほか、通称名の使用や情報管理、更衣、トイレ使用といった学生生活の具体的な事柄も明確にし、当事者と在学生の不安に応えた。

さらに当事者と、周囲の人に分けて注意点も明記し、学内外の相談窓口を紹介。6月1日に在学生に周知したが、反対などの意見は寄せられていないという。今後も、教職員や学生を対象にした研修会を開いて意識の醸成を図っていく。

## ガイドラインまとめる動き

LGBTQ+ (性的少数者)の学生に対する対応をガイドラインとしてまとめる動きが岡山県内の大学でも始まっている。既に定めたノートルダム清心女子大と同様に、岡山理科大(岡山市)は策定を進めており、予定や検討中も2大学あった。一方、全18大学のうち14大学は、当事者の相談や要請に個別に応じるとの姿勢にとどまっている。

ガイドラインは大学としての考え方や学生生活で配慮すること、

周囲の望ましい行動などを明文化する。ノートルダム清心女子大では5月に定め、大学のホームページで公表している。

「首都圏ではガイドラインに基づいて対応する大学が増えている。本学でも配慮を求める声が多々ある」と話すのは岡山理科大の担当者。来年度中の公開に向けてガイドラインに盛り込む内容の精査を進める。公開後は外部講師による啓発授業や研修会で教職員や学生の理解につなげる方針だ。

「時期は未定」としながらも、環太平洋大(同)は作成予定。川崎医科大(倉敷市)も学内で検討を行っている」と明かした。

国などは18年に大学教職員向け

の啓発資料を作った上で、各大学に学生が相談できる態勢整備などを呼びかけた。

ガイドラインを定めない大学は、既存の相談窓口などで個別のケースに応じて問題解決を行う。岡山大(岡山市)では約10年前から性的少数者に関するパネル展を毎年開催するなど、啓発に力を入れる大学もある。

性的少数者の問題に詳しい岡山大の中塚幹也教授(生殖医学)は「大学が、どういう指針に基づいて対応するかを明文化することは当事者の安心につながる。性的少数者はいると考え、態勢を整えることが大切だ」と話していた。

(杉本明信、立田さくら、黒瀬空)

岡山県内大学